

しだれ
枝下用水について

■枝下用水の誕生

枝下用水は、愛知県東部を流れる矢作川を水源として、オープン水路の幹線とパイプラインの支線水路の総延長は約 70km、豊田市南西部の地域（豊田市、知立市、みよし市）約 1,600ha をかんがいする農業用水です。

枝下地域は周りより高い台地であったため、川の水を田や畑に直接引いて使うことができず、ため池を造り灌漑を行っていました。しかし、ひとたび干ばつが起こると田は干上がり不作となるため、村人達は矢作川からの引水を待望していました。

枝下用水は、地元有力者らにより 1876 年（明治 9 年）から新たな開削計画が立ち上がりました。1886 年（明治 19 年）、民間の出資により着手し、翌 1887 年、山口県士族・時田光介や近江商人・西澤眞造らによって三河疏水事務所が開設、県と共に開削事業を始めました。1890 年（明治 23 年）に県が事業から撤退して民間の事業となりました。こうした民間人によって開削され、水利権が売買される「企業的用水経営」は全国でもまれでした。水害や資金難に苦しめられながらも、西澤らは同年、枝下用水の幹線（約 21 k m）と東井筋（約 9 k m）を竣工し、さらに、1892 年（明治 25 年）に中井筋（約 13.2 k m）を、1894 年（明治 27 年）に西井筋（約 10 k m）を竣工し、総延長約 50 k m に及ぶ枝下用水の原型が完成しました。



枝下用水流域地図

■現在の姿

現在、枝下用水は幹線を除く 3 支線がパイプライン化しています。幹線水路沿線に加え、パイプラインの上には枝下緑道が整備され、市民に憩いの場を提供しています。平成 18 年、枝下用水は「農業や地域の振興をはじめ自然・景観・文化など国土・農村環境の保全形成に貢献する優れた用水」として農林水産大臣より「疏水 100 選」の認定を受けました。

参考：枝下用水 130 年史-豊田市近代の産業と暮らし発見館

www.toyota-hakken.com/pdf/161216_exhi_info.pdf

豊田土地改良区-土地改良施設の紹介-枝下用水

toyotochi.org/shisetsu/shisetsu-1.html



枝下用水（開水路）



枝下緑道（パイプライン）